

公共施設の再編に関する意見交換会 概要報告

日時 令和元年10月25日(金)18時30分～20時05分
場所 雄勝文化会館オービオン 視聴覚ホール
対象地区 雄勝地域(院内地区、横堀地区、秋ノ宮地区、小野地区)

参加者 30人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
院内地区	7	7	0	0			1	1	0			2	2			3	3		1	1		0		
横堀地区	12	9	3	0			0			0			1	1		3	2	1	5	3	2	3	3	
秋ノ宮地区	3	3	0	0			0			0			1	1		0			2	2		0		
小野地区	6	4	2	0			0			0			1	1		4	2	2	1	1		0		
その他	2	1	1	1	1		0			0			1		1	0			0			0		
計	30	24	6	1	1	0	1	1	0	0	0	0	6	5	1	10	7	3	9	7	2	3	3	0

市出席者 湯沢市公共施設アドバイザー、
総務部長、企画課長、企画政策班長、担当

概 要

開 会

あいさつ

総務部長



説 明

(企画課)

- ① 公共施設を取り巻く課題
- ② エリア別の公共施設再編方針(案)の概要
- ③ 集会所の地元譲渡にかかる支援策の概要



概 要

情 報 提 供

湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏



質疑応答、 意見交換



○説明の内容については、我々が真剣に考えていかなければいけない課題と理解している。具体的に進めていく際にはそれぞれの地域の課題、問題点等と思うので、この場では、その地域の方々に特に積極的に発言していただき、その意見を反映していただければ良いと思う。

○雄勝地域の放課後児童クラブを統合し、将来的には雄勝小学校校舎内に配置したいということだった。市の説明では、市民サービスの低下を招かないように十分配慮するという話だったはずだが、児童クラブの統合により、保護者がわざわざ他の地区に迎えにいかねばならなくなる。今はそれぞれの地区にあり、自宅から近場で便利であるため、統合はまさにサービスの低下だと思う。

⇒(市)放課後児童クラブについては、公共施設再編計画(中間案)で基本的な考え方を記載している。基本的に、放課後も学校から児童を移動させることなく学校校舎内で安全に過ごさせたいという考え方であり、そうした観点から今後将来についてシナリオを描いてきたところである。統合により一部の地域の保護者からすれば遠くなることもあると思うが、普段通学している学校であれば、極端に遠いと感じることはないのではないかと考える。

○放課後児童クラブの移転について、確かに子どもたちにとって安全性や利便性を考えるとそのとおりだと思うが、子どもたちが地域から一旦離れると、地域に対する愛着はどうなるのか。そういうメンタル的な面や、人格形成まで影響が出てくるかもしれないため、再考してもらいたい。

また、地区センターのあり方が重要だという考えはそのとおりだと思う。地域自治組織としてのこれからのあり方は大変重要なことだと思うが、同時に行政組織も一緒に考えてもらいたい。総合支所からの支援だけでなく、優秀な職員を地区センターに配置して地域を盛り上げるようにすれば、市民はもっと行政サービスを身近に感じられるようになるのではないかな。

⇒(アドバイザー)本来は、地域の方々が地域の子どもたちの安全対策、見守りを担っていただき、地域の皆さんが児童クラブを運営していただけるような仕組みがあることがベストだと思う。地区センターのあり方のなかで、地区センターはこれからどういう役割を担っていったら良いのか、それぞれの地域の課題をどうやって解決していくのかということ、行政と一緒に考えて考え、作り上げていくことが重要である。その際には、支所のあり方も、考えていかなければいけない課題である。再編計画中間案では、支所は地域のコーディネーターとして、地域の課題を発見して、解決の方法を示して、ヒト・モノ・カネの支援を、支所を中心に回していくとしている。その仕組みをどうやって作っていったら良いのか、2年、3年くらい時間をかけて、地域の皆さんと一緒に協議しながら、築き上げていければ良いと思う。地域の皆さんの役割として、例えば高齢者の見守り、子どもたちの安全対策、放課後の子ども対策は自分たちでやるので、行政にはお金の支援をしてもらいたいというような声を出してもらいたい。どうやって地域が地域をマネジメントしていくのかということ、これから一緒に考えていただきたい。

○ほっと館は老朽化が進んで毎年のようにお金をかけて修理しており、資料でも今後改修にかかる概算事業費が示されているが、指定管理者はギリギリのところまで頑張っているの、継続していただきたい。急にやめることにはならないと思うが、早めに情報を提供してもらいたい。

⇒(市)概算事業費については、総務省が示している一定単価を使用して算出したものであり、改修内容等は現時点ではまだ検討していない。老朽化の問題等があり、今後あり方を検討していくこととしており、その結論に応じて対応、対策を講じることとなる。

⇒(アドバイザー)概算事業費については、指定管理料や運営費は別で、施設の改修費として少なくともこの位は見積もっていると考えていただきたい。ただし、設備の更新が近付いていると思うので、これから温泉施設をどうしていったら良いのか、収益の改善のための取組をどうするかということも含めて、一緒に検討できれば良いと思う。

○放課後児童クラブについて、確かに地域で子どもを見守るというのは大切なことだが、危険は避けなければいけないと思う。どんなことがあっても危険な建物の中に配置しておくわけにはいかないのではないか。ただし、地域住民、ボランティアがたくさんいると思うので、地域の人たちで子どもたちをどう見守るのかを考えて、それを活用した案が浮かべば良いと思う。学校校舎内にある児童クラブの事例では小学校との連携が取りやすい様子が見られるため、地域の子どもたちをどういうふうに見守っているのか、他の地域の参考例があれば、検討する良い機会になるのではないかな。

⇒(アドバイザー)現在の院内地区センターに児童クラブがあることは、安全面で危惧されるため、できるだけ早く解消したいという考えで、暫定的に横堀交流センターに移転するという計画である。学校の授業が終わったらそのまま学校の中の児童クラブに行くという仕組みを作るのが望ましいと思う。

○地域の方や婦人会の方が横堀交流センターを利用しているが、少子高齢化により、利用率や事業数を増やしていくことは困難である。維持していくことも課題であるため、他の地区ではどのようにしているのか勉強したい。

⇒(アドバイザー)横堀交流センターは大きな施設で、なかなか使いきれていないというのが実態かと思う。まだまだ使えるスペースがたくさんあるため、どのように有効利用していくのか、地域の皆さんと一緒に考えていかなければならない。

○子どもたちの声が地域に聞こえないというのは非常に寂しいことだが、今後5、10年後を想像すると少子化により学校で同学年になる子はいるのか、児童クラブに来る子も少なくなるのではないかと、小学校も児童クラブも一つになるのは仕方が無いのではないかと考えるようになった。子どもがいるのであれば、それぞれの地区にあっても成り立つとは思いますが、子どもが少ないことを考えれば、将来的には雄勝小学校の中にまとまってあることが理想だと思う。隣の雄勝中学校も教室が空いているので、そこを暫定的に利用できないか。

⇒(市)雄勝地域は小中一体型校舎ということで、他に先んじて小中連携が取れているが、現在小学校は使っていない教室がない。これは学校統合のために整備したためであるが、中学校には現在使っていない教室が5つある。教育の現場ではなかなか流動化できないという事情もあるが、十分工夫できる可能性があるとは思っているので検討の材料としたい。

○今回は地区センターのあり方についての案が無いようだが、自治組織と市が連携をとる場所として、あり方を検討してほしい。

⇒(市)市では協働のまちづくりに力を入れており、地区センター(自治組織)と市の役割分担を含めたあり方について、担当は協働事業推進課だが、市役所をあげて議論しているところである。協働事業推進課では、23の自治組織との意見交換会を開催しているところであり、全て回ってから庁内で議論したいと思っている。また、公共施設再編の観点からも、これからの自治組織及び地区センターのあり方、総合支所のあり方も連携が必要だと思っており、急いで一定の方向付けをしなければならないと思っている。

⇒(アドバイザー)全国的にも、公民館を地区センターに変えて、地域づくりの拠点にしていこうという流れがある。ただ闇雲に進めるのではなく、パートナーとしての地域の役割、行政の役割を明確にしたうえで、どういうところを担ってもらったら良いのか、そのときに、ヒト・モノ・カネの支援はどうするのかということも含めた仕組みを作り、地域の皆さんに提案していかないと議論の出発にならないと思っている。

○雄勝地域の小学校統合の時もそうだったが、今年度、学校統合に関して稲川・皆瀬地域の説明会に行き感じたのが、地域住民と保護者の意見が違ふということである。保護者の方々からは、早く統廃合を進めてほしい、統合によって子どもたちが生き活きた活動ができるようになるという意見が多い。確かに、自分の地域から児童クラブ、あるいは学校がなくなるということは寂しいということは十分に理解できるが、本来は子どもが主体であるのだから、子ども・保護者目線で考えなければならない。それぞれに児童クラブがあり、そこで数人の子どもが過ごしているところを見てきたが、気の毒でかわいそうだった。早く迎えに来てくれるのを待つよりは、みんなで賑やかに過ごしているほうが、子どもが成長する。どうすれば子どもが伸び伸び成長するかを主体に考えていかないと、いつまでたっても統廃合できないのではないと思う。過去に児童クラブに携わっていた際、校長先生に頼んで横堀小学校の1室を借りたことがあるが、そうすると、学校との連携も出てくるし、保護者が学校の先生と話す機会もできる。そういうことを考えた場合、寂しくなるといふ地域住民の意見よりも、子どもや保護者の意見を中心に聞いていくべきと思う。雄勝小学校の統合時も、地域住民や議員からは反対の意見が多かったが、住民アンケートをとったら、8割が統合に賛成だった経緯がある。

○雄勝庁舎周辺エリアについては提案されていないようだが、この辺りには県が設置している雄勝高校がある。今回の再編計画はあくまでも市の建物を検討しているが、住民サービスの維持、向上という観点から考えれば、県と連携した再編計画も今後必要なのではないかと思う。全国的には、今後廃校が想定される中学校に企業が入ってきて、中学生と一緒にワークショップをやっている事例がある。雄勝高校でも、企業のためのシェアオフィスを設置したり、大学の研究機関に入ってもらったりという取組など、そういった多機能化、多世代交流、複合化など、いろいろな利用の仕方が膨らんでくるのではないかと。子どもを持つ母親からは子どもの遊び場が少ないという意見があるようだが、雄勝高校の広い場所を使ってアウトドアをさせたりして、地域の子もだけでなく外から来た子どもたちにも一緒に遊んでもらうということも可能ではないか。地域の公共施設という観点で考えれば、それが市のものであろうと国のものであろうと県のものであろうと変わらないと思うので、あくまでも住民サービスの維持、向上の視点で、もっと面白いアイデアを考えることも必要なのではないかと思う。移住者として湯沢市には娯楽が少ないと感じているので、例えば高校の中で映画を見たり、弓道をやりたいと思う。ぜひ広い視点で考えていただきたい。

⇒(市)よく縦割り行政と言われ、国、県、市もそれぞれの所管の中で考えてしまうが、その地域にある公共施設という目線で考えることは今後必要になると思う。現在、市町村間の連携については、例えば大規模なスポーツ施設や文化施設について相互に利用ができないかという話し合いを始めたところである。今後、県との協議の場を設けた際には、御意見を参考にしたいと思う。

	<p>○院内地区センターについて、他施設への移転を検討することとなっているが、移転先は院内地区内を考えているのか。将来的には地区センターも統合していくのか。</p> <p>⇒(市)地区は地域住民の皆さんの発意の基に形成されている範囲であると考えており、市として地区センターを統合する計画は無い。現在の施設は歴史的建造物として補修していくこととしており、地区センターとしては不特定多数の方が出入りする際の安全性の確保の課題があるため、機能移転が必要である。地区センターの移転先の案は現在のところ持ち合わせていないが、これから地域の皆さんと課題、問題を整理したうえで、議論をスタートさせたいと考えている。</p> <p>○今の院内地区センターは、使いきれていない部分がある。敷地はたくさんあるので、今の地区センターに隣接して新たに造っていただきたいというのが地区の要望である。地区センターがなくなれば、院内地区は市役所からも支所からも遠くなる。旧院内小学校を利用することは、立地的に賛成できない。</p> <p>⇒(アドバイザー)新築案を含めた候補を市から提案し、地域の皆さんと費用対効果も考えながら、どうあったら良いかを考えなければいけない。市には23の自治組織があるため、それをベースとした地域経営の仕組みを考え、もっと中身を良くしていくための方策を少し時間をかけて議論していきたいと思っている。そうすると、おのずと場所の問題も整理されていくと思う。</p> <p>○院内地区センターについて、これから改修計画や有効活用など、管理運営の手法について検討していくことになると思うが、早い段階で検討委員会を立ち上げるべきではないか。地域住民、行政、廃校利活用の専門家や芸術家が入り、どう保存するかということばかり注視せず、早めに議論して手を打ったほうが良いのではないかなと思う。</p> <p>⇒(アドバイザー)保存ではなく、活用することが重要だと思っている。改修しても全然使われない施設とならないよう、どうやって有効活用を図っていくのかということを考えなければならぬ。市にはまだ使われていない施設、廃校舎や休止した施設がたくさんあるが、それも含めて、民間のノウハウを活用しながら、財産活用のあり方を考えていかなくてはならない。</p> <p>○エリア別再編計画については、雄勝地域では院内地区が示されているが、今後他の地区についても作成される予定であることを市民の皆さんに理解してもらうべきである。そして具体的なエリアに対してはそのエリアの住民の意見を聞く形で進めてほしい。また、児童クラブやほっと館など、この一つの会議で意見集約することは困難であるため、市民サービスの低下をきたさないよう、サービスを受ける方々の意見をきちんと汲み取るような形で会議を進めてほしい。</p> <p>⇒(市)エリア別再編計画では、現時点で老朽化、利用状況などの課題があるため、早急に解決すべき区域を設定した。これからがスタートだと思っており、利用者や、地域住民、携わっている皆さんに御意見を伺いながら、市の方針を示していきたい。また、個別の施設については、すでに今年度4月から、所管課がそれぞれ施設の利用者の皆さん等との意見交換を開始している。</p> <p>○湯沢駅・市役所周辺の再編について、湯沢生涯学習センターや湯沢勤労青少年ホームは老朽化しているため今の施設を使うことはできないことは重々承知しているが、新設しなくても令和2年4月に譲り受ける湯沢雄勝広域交流センターを利用する手法は考えられないか。</p> <p>⇒(市)湯沢生涯学習センターや湯沢勤労青少年ホームが老朽化しているため、その機能を湯沢雄勝広域交流センターに移転できないかについて検討したが、湯沢雄勝広域交流センターは、市の同類の集会施設と比較しても利用率が高く、それぞれの集会機能をすべて集約することは困難であると判断した。一方で、現在広域の事務局が入っている部屋は空きスペースとなるので、周辺施設の状況から老人福祉センターと倉内団地児童クラブさくらっ子の機能を移転することとした。倉内の児童クラブは、市営倉内住宅の集会所を借りて活動しているが、1人当たりの基準面積を確保できない状況である。本来の集会所としての利用もできず、子どもたちも大変窮屈な場所にいることが従来からの課題であったが、広域交流センターに移すことで、子どもたちの安全と安心が確保できる。老人福祉センターについては、建物が老朽化しており、また大きく十分使いきれていないこともあり、建物として危険のない所に移すことができれば、活動されている方々が安心して活動できる。</p> <p>⇒(アドバイザー)私からも検討過程でいろいろ市に問題提起したが、そういう状況であればやむを得ないと思う。ただし、湯沢生涯学習センターや湯沢図書館の機能を駅前に移転させる場合であっても、必要最小限のものでコンパクトに造って現状の2割から3割縮小されていくならば、ある程度は納得できるのではないかな。</p>
閉 会	20時05分終了